記者発表資料

平成２７年１月２９日
山形河川国道事務所
新 庄 河 川 事 務 所

今冬の豪雪でも消流雪用水導入事業が効果を発揮中

～～　豪雪地域の安全で快適な生活環境を確保　～～

国土交通省では、冬期に安全で快適な生活環境を確保するため、水量の豊富な最上川等から、市街地を流れる中小河川や流雪溝に消流雪用水を供給する消流雪用水導入事業を実施しています。

今冬は１月１０日までの積雪が例年の約１．８倍となり例年にない豪雪となっておりますが、これまで消流雪用水導入事業が整備された地域（面積約７３０ha、約１１，０００世帯、約３６，０００人）では、今期の豪雪においても、除排雪作業の軽減や道路での歩行者空間の確保など、その効果が発揮されています。

【事業の効果】

最上川水系では、これまで６地区の整備を行ってきました。

また、現在、大石田町岩ケ袋地区でも事業を実施中です（平成２７年度完成予定）。整備された地区では、自宅前の消流雪溝への投雪により除雪作業の大幅な軽減や、積雪で阻害されていた歩行者空間が確保されるなど、安全で快適な生活環境となる効果が発揮され、地域からは「非常に助かっている。」、「雪捨場がなく道路も狭くなっていたが、消流雪施設により道路が広くなり、交通事故が減った。」、「子供たちも通学しやすくなった。」などの声が寄せられています。

〈発表記者会〉山形県政記者クラブ・米沢記者クラブ・新庄新聞放送記者会

【問い合わせ先】

（長井地区に関する件）

国土交通省　東北地方整備局
山形河川国道事務所　　TEL 023(688)8421（代表）
（河川）副所長　木村伸一　（内線204）
工務第一課長　片桐真也　（内線311）

（長井地区以外に関する件）

国土交通省　東北地方整備局
新庄河川事務所　　TEL 0233(22)0251（代表）
（河川）副所長　阿部富雄　（内線204）
工務第一課長　菅原弘敏　（内線311）

豪雪地帯の課題

＜中小河川の雪による閉塞に伴う浸水＞



地区内の中小河川や流雪溝は流量不足のため、積雪や投雪により閉塞し、宅地や道路に浸水被害が生じます。

＜過酷な除雪作業＞



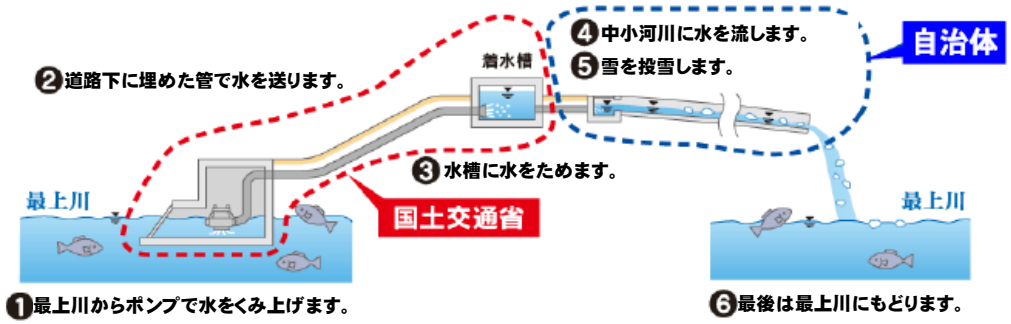
除雪作業は多大な労力と時間を費やします。

＜歩行者空間や車の交通を阻害＞

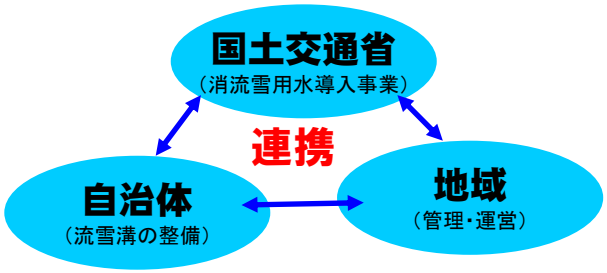


捨て場のなくなった雪が歩道や車道に多く堆積し、歩行者や車の交通を妨げ、地域住民の生活環境の大きな支障となります。

消流雪用水のしくみ（大石田町の例）



関係機関との連携



消流雪用水導入施設による効果





■ 真室川町 ＜歩行者空間の確保 ＞



排雪先がなく、歩道が雪で埋め尽くされていたため、児童の通学も危険な状況でした。



歩道の雪堤は無くなり、通学路も安全になりました。

消流雪用水導入施設による効果

■ 大蔵村　　＜除雪作業の軽減＞



排雪先が無い為、軽トラック等で排雪しなければなりませんでした。



導水することで、円滑な除雪が可能になりました。

■ 大石田町　＜車両空間の確保＞



路肩に堆積した雪堤が車両通行が困難になっていました。



路肩の雪堤が解消し、スムーズな交通が可能になりました。

地元の声

消流雪用水導入施設が整備された地区の方々の意見をうかがいました。

全体

●大雪の日や屋根の雪下ろしをした日には、側溝に雪が詰まり困っていたが、消流雪溝が完成してからはスムーズに雪が流れ、除雪作業がはかどってる。
（大蔵村　女性）

●非常に助かっている。現在では、施設があることが当たり前になってきている。（長井市　男性）

●消流雪水路が設置してある地域は、除排雪に便利なため市内でも優良宅地となっており需要がある。
（長井市　男性）

●消流雪が無かった頃は、雪を捨てる場所が無く、家が雪で埋まっているような状態で、家の前の雪を上り下りして玄関に入るような状況であったが、今では家の前には雪が無く、スムーズに家には入れるようになった。町のメインストリートにも雪が無くなり、かなりの効果である。（大石田町　男性）

●まだ整備されていない地区もあるので、各地区に消流雪を広めてほしい。（大石田町　男性）

作業の効率化

●導入前と比べて水量が全然違う。除雪作業がすごく楽になりました。（大石田　女性）

消流雪用水導入施設が整備されて・・・

安全・安心

●道路幅も通水後は広く感じられ、通学も安心して見ていることができる。（真室川町　男性）

●雪捨場がないため道幅も狭くなっていたが、消流雪により道路が広くなり、交通事故が減った。また、子供たちも通学しやすくなった。（大石田町　男性）

●車を車庫から出す時、流雪溝がないと雪の山により視認性が悪かったが、今では道路の見通しが良くなり安心して車庫から車が出せるようになった。
（大石田町　男性）

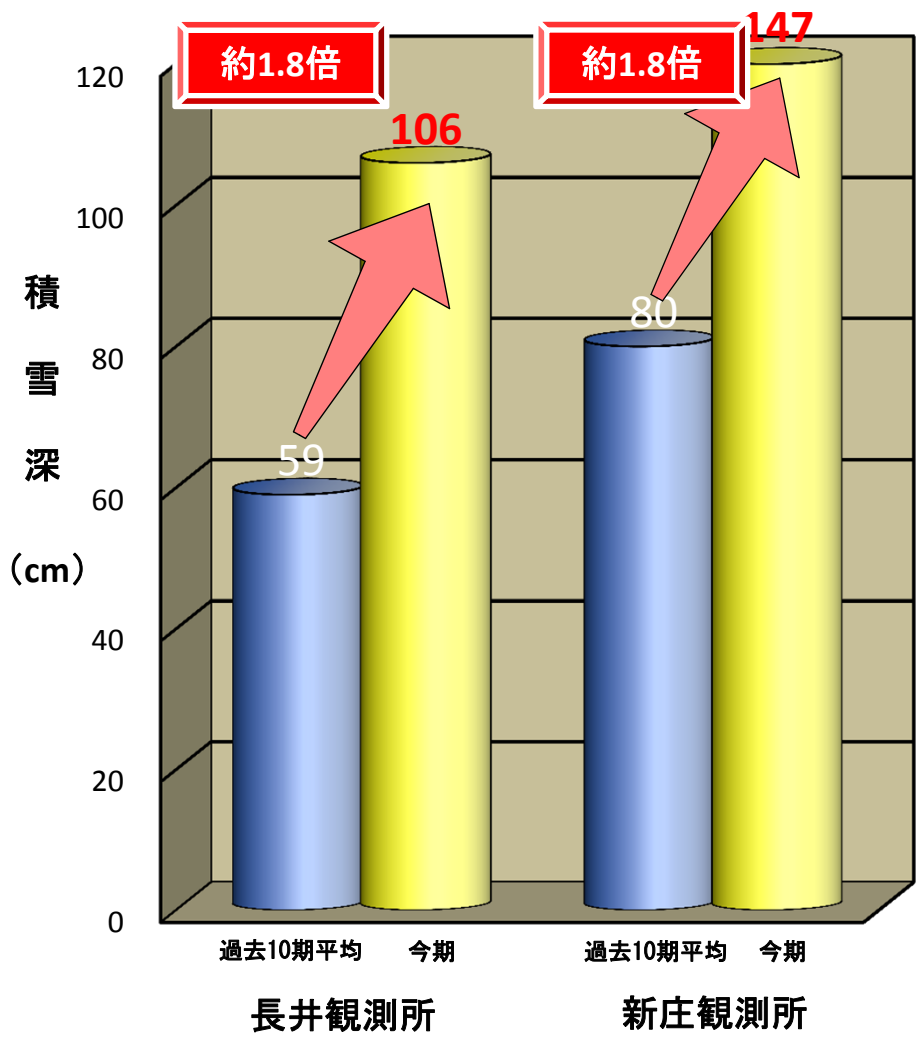
連携

●これまでは一斉に雪を流雪溝に捨てるので水があふれることがあった。施設ができ利用協力会ができたことで、町内会を越えた交流が生まれ、町が活性化した（大石田町　女性）

●用水管理会が出来たことにより、上流区間の土地改良区と毎年調整会議を開催し連携を図るなど、コミュニケーションが図られるようになった。
（長井市　男性）

●長井市と水路監視員が出席する調整会議を設け、意見交換等を行っており、行政とのつながりを維持している。（長井市　男性）

積雪深の比較（H27.1.10現在：気象データ）



今冬は例年にない大雪となっており、1月10日現在で過去10シーズン平均に比べ約1．8倍の積雪深となっています。

消流雪用水導入施設　整備箇所



最上川水系では、これまで6地区で消流雪用水導入施設の整備を行っています。
また現在大石田町岩ケ袋地区で事業を実施しています。

地区名	市町村	完成年度	受益面積（ha）	受益人口（人）	受益世帯数（世帯）	取水量（m3/s）
真室川	真室川町	H11	150	5,100	1,500	2.0
長井	長井市	H12	407	23,000	7,000	5.0
大石田	大石田町	H15	105	5,100	1,300	1.3
名木沢	尾花沢市	H17	16.5	670	164	0.5
清水	大蔵村	H19	20.5	968	268	0.5
横山	大石田町	H20	27.5	1,038	278	0.8
計			726.5	35,876	10,510	
岩ケ袋（事業中）	大石田町	H27完成予定	33.6	1,280	347	1.1

＊受益人口、世帯数は整備時点のもの